

町政懇談会終了



暮らしやすいまちづくりをめざして

7月31日 中和自治会

12

自治会で開催した町政懇談会は、町政運営に町民の皆さまの意見を反映することを目的に毎年開催しています。

今年は7月30日から8月29日までの期間で開催し、157名の方に出席していただき、町政や日常生活の困りごとについて活発な議論が交わされました。地域ごとに個別の要望事項を多数いただきましたが、この誌面では、全町に共通するご意見・ご要望のみ紹介します。

(Qは問、Aは回答説明です)

Q 塩狩温泉跡地と夫婦岩の土地を購入すると聞いているが、活用方法は。

A 塩狩温泉跡地については議会でもご審議いただきました。方向性が見えてから購入すべきとの意見もいただきました。

和寒町の玄関口として景観を考えたとき、町内外から早く解体すべきとの多くのご意見をいただき、まず町の所有にしてからでないと活用方法が見えてこないことから、今回購入したところ。一方では、方向

性が見えてから購入すべきとの意見もいただきました。

また、温泉の源泉については湧出量がはつきりしていない状況です。

今後の利用方法について町内外から多くの意見をいただき、夫婦岩や南丘森林公園も含めて面としてとらえ、道北、天塩の国の玄関口として一体的に検討していきたいと考えています。



解体・整理することになった旧塩狩温泉

昔は信仰の対象として奉られていた夫婦岩



Q 児童の悲惨な交通事故が起こってしまったが、二度とこの悲劇を繰り返さないよう、どのように取り組んでいるのか。

A 事故後は、バスの乗降指導の強化や、道路を横断しないようにバスの運行ルートを見直し、バス車両に後方車両に注意を促す表示をしたほか、学校でも自分の命を守るための教育・指導にこれまで以上に取り組み、町としてできることを最大限取り組んでいます。

交通安全運動には終わりがありません。これからも気を緩めることなく、和寒町が交通安全のモデルになるよう、啓発活動や安全対策など、継続して取り組んでいきます。

Q ふるさと納税の状況は

A 平成26年度は146件、315万円の寄付をいただきました。今年度はさらに件数が増える見込みで、毎日のように寄付の申し込みがきています。金額

的には400〜600万円くらいの見込みです。

寄付のお礼として昨年10月から始めた「和寒ふるさとギフト」は、当初9品目でスタートし、現在は12品目に増やしています。申込が多いのはメロンと、カボチャや玉ねぎなどの農産物を詰め合わせた秋穫セットです。

ふるさと納税は、ギフトによって町内の農家やお店にもお金が流れるため、地域経済にとっても効果は大きいと考えています。

和寒町をさらに応援していただけるようなギフトの内容やシステムをめざしていきます。

Q キツネが多く、トウモロコシが根こそぎ食べられている。

頭数を減らすなど、被害を減少させる対策はできないか。(三和・菊野)

A キツネは有害鳥獣に指定されているため、捕獲や駆除ができない状況です。最近はやライグマが増えてきており、和寒でも30頭以上が捕獲されています。

ライグマは、講習を受けてい

ただくと箱わなを設置して捕獲することができそうです。自治会や地域単位で産業振興課までご連絡ください。

また、今年は熊の目撃情報もかなり増えています。襲われないように注意していただくとともに、熊を見かけたら役場にご連絡ください。



8月13日 西町自治会

Q 介護の担い手が不足しています。和寒で働きやすい環境をつくるため、楡の里人づくり基金の見直しやイターン、Uターン者への定住支援など、高齢者への多い町で介護スタッフがどれだけ貴重な存在かをわかっていただきたい。

このほか、まちづくりのアイデアや行政に対するご意見・ご要望、地域の困りごとなどが寄せられました。急を要するものや後日確認が必要となるものについては、自治会の皆さんや関係機関と協議をおこない、処理状況を関係者や各自治会にお知らせすることとします。

町政懇談会に関するお問い合わせは、総務課情報管理係 (32-2421) までご連絡ください。

A 健康で歳を重ねる環境をつくることは当然ですが、今後増えていく高齢者に対して、介護の手が足りず、今のままでは心許ないという現場の声はしっかりと受け止めていきます。

また、団塊の世代が75歳を迎える2025年には、首都圏の高齢者対策も大きな課題になります。

町としても、移住・定住者に対する支援のほか、福祉政策の充実化を図っていきたく考えています。